

第 24 回 鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会 議事要点録

日 時:平成 30 年 1 月 12 日(金)14:00~15:25

場 所:鈴鹿市役所 本館 12 階 1203 大会議室

出席者:32 名(別紙『組織構成及び出席一覧表』参照)

組織委員 25 名(全 37 名中 出席 12 名, 代理 13 名, 欠席 12 名)

事務局(鈴鹿市)7 名

内 容:以下のとおり(要旨)

1 あいさつ

【鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会会長・鈴鹿市長 末松則子】

- ・今年度のF1日本グランプリは、レギュレーションが改定され、各チームのレベルが拮抗する中で迎えたシリーズ終盤の第17戦であったので、白熱するチャンピオンシップ争いなど、非常に盛り上がったF1日本グランプリとなった。
- ・委員の皆様方のご協力により、大きなトラブルなく無事に大会を終えることができたことを、心から感謝を申し上げる。
- ・鈴鹿で開催されるF1日本グランプリは、チャレンジングでテクニカルな世界有数の国際レーシングコースを舞台に繰り広げられるレースとして、国内外から評価されており、世界中で「SUZUKA」の名が知れ渡っている。
- ・日本グランプリならではのF1ドライバーやチームと連動した取組の展開により、レース以外にも魅力あるものとなっていることが、海外からの観戦者の増加につながっているものと思っている。
- ・国際的なイベントであるF1日本グランプリを鈴鹿だけでなく、三重県、そして国の貴重な観光資源として、国内外からお越しになる観戦客の皆様に対して、より一層おもてなしの心でお出迎えしたいと考えているので、引き続きご協力をお願い申し上げます。
- ・来年度、鈴鹿での開催30回目を迎える節目のF1日本グランプリに向け、本日の会議が有意義な意見交換の場となるよう、委員の皆様にご協力をお願い申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

2 報告事項

(1)2017 年F1日本グランプリ大会結果報告について

【株式会社モビリティランド取締役 鈴鹿サーキット総支配人・塩津氏】

- ・資料1『F1グランプリレース開催レポート』に基づき説明
- ・2017 年F1日本グランプリについても、多くのお客様を受け入れ、無事故で大変ス

ムーズに終えることができた。多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

- ・今年についても『THE 1 AND ONLY』というテーマの下に唯一無二のグランプリを目指した。
- ・残念ながら、マクラーレンホンダとしては最後の日本GPとなったが、世界各国をみてもファンとドライバーが交流できるグランプリは他にはない。ステージに多くのファンにあがっていただき、喜んで交流していただいた。
- ・お子様にもモータースポーツに興味をもってもらうため、タイヤ交換やフェイスペイント、フラッグづくり等も体験いただいた。今年はF1チームの中でウィリアムズがF1参戦 40 周年となるので、歴史的な車両の展示やドライバーのトークで盛り上がった。
- ・F1ウィークとして 5 日間にわたってイベントを開催した。木曜日は地元小学生 6 校 405 名にお越しいいただき、ドライバーとの交流やピットウォークを楽しんでいただいた。
- ・月曜日についても佐藤琢磨選手、デimonヒル選手のファンミーティングやストレートウォークを開催し、最後まで楽しんでいただいた。あいにくの天気だったが、3,000 名の方にご来場いただいた。
- ・今年はFOMの体制が大きく変わり、新しいチャレンジに取り組んできた。これまでなかなか実現できなかった、土曜のキッズピットウォークやナイトピットウォークが実現できた。
- ・オープニングのスタートセレモニーについては、F1ファンで有名な横山剣さんに国歌斉唱をしていただいた。
- ・自衛隊のヘリコプター4 機による展示飛行を実施した。残念ながら当初予定していたF15展示飛行は中止となった。事前に訓練飛行があったが、情報を伝えられておらずご迷惑をお掛けした点が大きな反省である。
- ・全体の総括としては、5 日間で148,000 名と、昨年より下回る結果となった。マクラーレンホンダの不振もあったが、日本GP直前にマクラーレンとホンダのチームが今年限りといった報道が重なったことでお客様が減ってしまったと考えている。
- ・海外からの客は年々増えており、今年は 6,000 名を超えるお客様にお越しいいただいた。皆様に協力いただいている交通についても、スムーズな環境が整った。少し紹介させていただくと、昨年はイギリスの客が多かったが、今年はヨーロッパ、アジア等各国のお客様が増加した。また、ひとりでの来場から、ご家族・友人とご来場いただく傾向にシフトしている。周辺の観光と合わせた動員も増加している。アンケートについても、高い評価をいただいている。交通機関の情報発信など改善点はあるが、海外からのお客様にはご満足いただいている。
- ・今年は、鈴鹿での開催が 30 回目の記念大会となる節目を迎える。日程については 2017 年と同様に 10 月の 3 連休である。
- ・F1のロゴが変わる。また、ホンダがトロロツとタッグを組み、「レッドブル・トロロツ

ソ・ホンダ」となる。

- ・手元の資料のドライバーの名前が間違っているが、ピエール・ガスリー選手とブレンドン・ハートレー選手がドライブする。
- ・2018年すぐに日本人ドライバーとは行かないが、ぜひ紹介したいのが福住選手。二十歳の若手で、GT3で活躍するドライバーである。2013年に鈴鹿レーシングスクールを卒業したドライバーで、今最もF1に近い選手である。
- ・30回の記念大会となるが、これまで以上に魅力を上げて、また鈴鹿に来たくなるというイベントに整えていきたい。このところお客様の数が低迷しているが、30回を節目に、多くのお客様にお越しいただききっかけにしたい。ぜひ30回大会が盛り上がるよう、皆様方のご協力をお願いしたい。

3 2017年鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会の取り組み結果について

(1)環境整備部会

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・岡田】

- ・環境整備部会の取組について、資料 2『環境整備部会資料』に基づき、各事業者より報告を行う。

【国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所・中井氏】

- ・資料 2『環境整備部会資料』P1～P6に基づき説明
- ・三重河川国道事務所が関わった施策については、②⑥⑦⑧である。
- ・シャトルバスルートについては、昨年同様、中勢道路を専用ルートとし、公共交通の利用をサポートした。評価については「とても満足」「満足」が9割を占めている。利用者の声については、「到着時間の目処がたった」という声がある一方で、「事前広報が少ない」という声もあった。
- ・情報提供について、開催の約1ヶ月前から情報板で注意喚起を表示し、アンケート回答者の約1割の方が利用したと回答した。
- ・推奨ルートについても、昨年度同様に方面別所要時間を提供した。帰路マップに概要とQRコードを掲載し、ウェブ上でも詳細な情報が見える状態にした。評価としては、アクセス数が昨年と比べて増加した。
- ・円滑化施策実施結果として、プローブデータを用いて検証し、決勝レース終了後の約3時間30分後に緩和という結果が表れた。

【近畿日本鉄道・高橋氏】

- ・資料 2『環境整備部会資料』P5に基づき説明
- ・定期外降車人員については、沿線で津祭り、白子駅の近くで中高の卓球、弓道の大会があったので、増えるという結果となった。
- ・特急券の発行状況については、今回初めて調べたが、会員登録せずにネットで特

急券を買えるようになったので、駅窓口発行が5%減となった。ネット購入が増えたことにより、窓口混雑の軽減ができた。

- ・どの駅から特急に乗車したか、というデータも掲載した。こちらも初めてのデータである。やはり名古屋が多くて55%。桑名、四日市、津はホテルに宿泊された方のご利用かと思われる。
- ・パイロン、パーテーション、拡声器等を使って交通整理を実施した。今年も昨年と同様に、エスカレータを下り専用、階段を上り専用にした。さらに上りを、窓口行きと改札行きに分けた。
- ・ボランティアおよびコンシェルジュの配置については、普段名古屋駅にいる駅コンシェルジュおよび商工会議所より派遣いただいたボランティアを、窓口前、階段下に配置した。声を掛けられるのを待つのではなく、積極的に声かけをしていただいた。駅コンシェルジュについては出札窓口に同行し、窓口混雑の緩和を図った。

【伊勢鉄道・安江氏】

- ・資料2『環境整備部会資料』P7～P10に基づき説明
- ・全体として無事故で完遂できてよかった。利用状況は、昨年より1割減である。外国人は増加傾向にあり、日本人減により相対的にも増えている。
- ・例年どおり、普段は特急、快速がとまらないが、F1期間中は表のと通りの列車本数で対応した。時間帯の集中度についても、前回の2016年並みだった。
- ・決勝日の運行状況も、平均2分、最大で9分であり、年々改善してきている。参考までに最大の降車・乗車人数は、500名程度であった。
- ・ナイトピットウォークがあり、7日(土)の利便を図るために、21時にサーキット稲生駅発名古屋行き臨時快速を運転し、100名ほど乗車いただいた。その1本前の20時23分発名古屋行き快速も、昨年より多い、540名の方に乗車いただいた。
- ・外国語による掲示は、手元で説明できる案内を活用したり、ジャパンレールパス利用説明など、昨年より数を増やした。また、精算ゲートを増設し、精算でお待ちいただくお客様をスムーズに流すことができた。
- ・その他、通訳ボランティアについては、今年も商工会議所より派遣いただいた。外国の方へ積極的に声掛けし案内することで、鈴鹿のイメージ向上につながっている。また、列車内においても、車内吊りの写真展を開催した。
- ・駅周辺の環境整備として、仮設照明を設置した。また、初の試みとして、駅名が入ったキーホルダーを販売した。
- ・最後に、今後の課題としては、駅からサーキットまでの歩道が一部拡張されたが、全区間の完成は未定となっている。観戦者の安全の確保のためにも、今後も進めたい。

【三重交通・内山氏】

- ・資料 2『環境整備部会資料』P11 に基づき説明
- ・シャトルバス運行ルートは各機関様の協力のもと、中勢バイパスを使用し、円滑に運用することができた。
- ・白子駅での乗降については、駅前商店街組合様の協力のもと、臨時バス乗り場を設置し、複数の車両の同時出発をすることができた。また、シャトルバス待機場所として、鈴鹿医療科学大学の駐車場を確保いただいた。
- ・鈴鹿サーキットでの乗降については、8 番駐車場を臨時バス乗り場とし、F1 決勝日に、64 台体制、最大 5 台の同時出発で対応した。中勢道路バイパスの稲生高校北交差点を規制いただいたことで、円滑な輸送ができた。
- ・輸送実績としては、3 日間延べ 35,518 人であり、前年比 1.3%増加した。
- ・今後の課題としては、中勢バイパスの開通後のルート検討と、シャトルバスの待機場所の確保である。

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・久田氏】

- ・資料 2『環境整備部会資料』P12～P15 に基づき説明
- ・皆様のご協力のもと、F1 日本グランプリを無事に終了することができた。感謝申し上げます。
- ・例年通り、中勢バイパスを規制したバス専用ルートのスムーズな運行を、各機関様ご協力のもと実施することができた。新しい取り組みとしては、御菌モータープール駐車場からシャトルバスを運行したが、スムーズな運行で好評だった。帰路のサーキット周辺交差点の混雑の緩和もできた。
- ・Web 情報の拡大ということで、アクプロサポーターの募集をサーキットホームページからリンクを貼って早期開始した。また、各公共交通機関様の協力のもと、公共交通機関利用促進に向け、ホームページにリンクを拡大して貼った。
- ・帰路情報の拡充については、ホームページにて早期から推奨ルートを情報発信し、昨年の所要時間も掲載した。海外のお客様が aumentando しているので、空港からのアクセスと、公共交通機関利用の場合、車の場合、それぞれに対する情報拡大を図った。

【鈴鹿市中央消防署・加藤氏】

- ・資料 2『環境整備部会資料』P16～P18 に基づき説明
- ・コースの中に 7 箇所の救護所を設置。救護警備人員をF1 開催期間中の 7 日、8 日にそれぞれ合計 46 人配置した。8 日については化学車隊 4 名を含む。
- ・多くは靴擦れ、擦り傷など軽症であった。重篤な方については、救護本部のドクターの判断により、もてぎ救急車で対応に当たった。8 日の決勝日に、もてぎ救急車による搬送が 2 件あった。
- ・来年度についても、同様の救護派遣の体制をとり、対応に当たりたいと考えている。

【中日本高速道路株式会社名古屋支社桑名保全・サービスセンター・水野氏】

- ・資料 2『環境整備部会資料』P18-2～P18-3 に基づき説明
- ・鈴鹿ICの渋滞対策がメインであるが、鈴鹿ICから亀山IC、みえ川越IC、四日市東IC それぞれに分散していただく啓発をするという内容である。鈴鹿ICで渋滞が発生した場合の後尾警戒を実施した。
- ・10月6日から8日の3日間で主に午前中に対策をしたが、結果6日(金)に450メートルの渋滞が発生した。毎年土日に渋滞が発生するが、今年は金曜日だけであり、主に通勤の渋滞と重なったのでは、と考えている。
- ・標識車においては、記載のとおりそれぞれの場所で鈴鹿ICを回避する案内をプリンク表示した。

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・岡田】

- ・資料 2『環境整備部会資料』P19～P36 に基づき説明
- ・ケーブルネット鈴鹿様の取り組みについて、本日は環境整備部会としてご出席いただいていないので、当方からご報告させていただく。
- ・番組「ちょっと言わせて」コーナーでは9月16日から、交通規制のお知らせ、地元前夜祭の告知を行い、オンエアいただいた。また、10月6日の地元前夜祭の模様をオンエアいただいた。
- ・フェイスブック、ツイッターで交通規制、定点カメラ等の情報を発信していただいた。また37箇所の情報カメラで交通状況が確認できるなど、観戦客に役立つ情報提供をしていただいた。
- ・続いて、交通円滑化の取り組み結果についてご説明させていただく。
- ・F1日本グランプリの開催概要について、来場者数は13万7千人と前年より、8,000人の減となった。F1日本グランプリ3日間での来場者の機関の分担は、公共交通利用者は前年の33%より1%増加し、来場者全体の34%の方が公共交通をご利用いただいた。決勝日の来場者は6.8万人で、そのうち約1.9万人が公共交通機関を利用いただいた。
- ・交通円滑化の目標については、今年も鈴鹿ICへの交通集中をはじめ、8項目の課題に対し、全体の目標として、鈴鹿市内の渋滞解消時間を4時間程度に設定した。それを達成するために、公共交通機関の利用を促進し、利用分担割合を31%以上に設定し、また、自動車交通について、鈴鹿ICの終日利用割合を20%以下に抑えるとともに、利用時間の均一化を図ることを目標とした。
- ・交通円滑化の施策について、中勢バイパスを活用したシャトルバス専用レーンの実施については、昨年に引き続き、国土交通省様、鈴鹿警察様のご理解とご協力のもと、実施させていただいた。
- ・新たな取り組みとして、⑩の赤字であるが、協議会HPでの情報提供において、増加

する外国人観戦客に対応するため、外国語対応のページを作成した。英語のみではあるが、情報発信の強化を行った。これまで空港などから最寄り鉄道駅までのアクセスのみの掲載であったが、鉄道駅からの徒歩ルートやシャトルバス乗り場までの徒歩ルートの案内を写真と地図で追加した。

- ・交通円滑化の目標の達成度については、決勝レース終了後3時間30分で渋滞が解消し、目標である渋滞解消時間 4 時間以内を達成できた。
- ・公共交通機関の分担割合についても、34%とほぼ横ばいではあるが、達成することができた。
- ・鈴鹿ICへの交通集中分散については、帰宅時の利用割合が 31%と昨年より増加したものの、鈴鹿 IC の利用時間の分散については、やや均等利用率が上昇し、集中がやや緩和した。
- ・白子駅・サーキット間のシャトルバスについては、昨年と比較し、近鉄白子駅の利用者、シャトルバスの利用者ともに増加した、バスの利用率は横ばいの約 7 割であった。
- ・白子駅から鈴鹿サーキットへのシャトルバスの所要時間は、全体の平均としては14分、乗車が集中する午後も、平均 16 分と、昨年よりもスムーズに運行することができた。
- ・名古屋行き高速バスの利用者については、若干減少したがほぼ横ばいであった。また、利用者のうち、帰宅時当日利用が全体の 5 割を占めている。
- ・貸切バスの利用者は、約 100 人増加という結果であった。
- ・近鉄四日市駅からのパーク&レールライドについては、JAとくすのきパーキングで増減に差がでたが、合計するとF1開催前週と同程度の利用であった。
- ・アクプロスマートフォンを活用した情報提供については、サポーター応募数が 213 人、決勝レース終了後、138 人にアプリで情報提供いただいた。
- ・アンケート調査の結果によると、アクプロの認知率が約 5 割、全体の 15%がアクプロを利用し、帰宅時に参考になった情報として評価していただいた。
- ・協議会が実施した利用者アンケートからの分析について、各施策の利用者満足度については、公共交通機関、自動車交通、情報発信ともスムーズに移動ができ良好との結果がでている。
- ・交通状況の評価については、自動車利用者は来場時、帰宅時ともに「前回と同様にスムーズに移動できた」の回答が増加した。公共交通等利用者の来場時については、「前回と同様にスムーズに移動できた」が減少しているが、その分、「初めての観戦で比較できない」が増加している。
- ・実施施策の評価については、シャトルバスの運行の「大変良い」が約 1 割増加し、その他各施策とも「良い」「大変良い」の肯定的な回答が 8 割以上となっている。
- ・応援や感謝の意見を多数いただいたが、改善・要望といった意見もあり、いくつか紹介させていただくと、鉄道・バスの運行については、交通規制の強化、レース終了

後の本数の増便の必要性などの意見をいただいている。

- ・渋滞・交通情報については、金曜日の夕方の渋滞についての意見をいただいた。その他、情報提供や道路の整備についての意見もいただいた。
- ・今年度は、自家用車ででの来場者の鈴鹿ICの利用が多かったため、次年度は、推奨ルートの周知を強化し、交通集中の分散に取り組んで参りたいと考えている。また、市内の交通渋滞緩和のために、引き続き、公共交通機関の利用促進に取り組んでいく。
- ・その他、アクプロの有効活用やパーク&レールライドのさらなる周知など、課題も多いが、一つ一つの施策を精査し、次年度も交通円滑化に取り組んで参りたいと考えている。
- ・系統図に記載しておる施策については、全て実施完了している。詳細については、進捗状況を確認いただくよう、願います。

(2)おもてなし部会

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・小野】

【資料3】『2017年おもてなし事業』に基づき報告。

- ・今年度のF1日本グランプリは、10月5日(木)から8日(日)までを重点期間と位置づけ、各種取組を実施した。

【鈴鹿商工会議所・阪田氏】

【資料3】『インフォメーション(通訳ボランティア)ブース』P5に基づき報告。

- ・近鉄白子駅、鈴鹿サーキット稲生駅、鈴鹿サーキット内青年部ブースにて、市民通訳ボランティアに活動いただいた。内容としては、外国人観戦者への切符案内、飲食店情報の紹介等である。
- ・次年度も実施予定のため、皆様の協力をお願い申し上げます。

【鈴鹿商工会議所青年部・加藤氏】

【資料3】『F1応援イベント、おしごと体験ワールド、Fツイ割』P6～7に基づき報告。

- ・青年部40周年の記念式典の準備の関係で、代理で報告させていただく。
- ・青年部のF1応援イベントについては、10月6日から8日までの3日間、鈴鹿サーキット園地内で実施した。
- ・メッセージオトドケ隊については、ドライバー出身国の国旗に、寄せ書きをしていただき、各ドライバーにお渡しするというものである。
- ・くれないのチェッカーフラッグ&アンケートプレゼントについては、優勝ドライバーを予想し、的中した方にF1決勝で使用されたチェッカーフラッグ、副賞として、鈴鹿ブランド商品を進呈した。アンケートの総応募数は、1,420名であった。
- ・鈴鹿ブランドの展示やボディペイントについては、予定通り実施した。また、ボディペ

- イントについては、7日、8日の両日ともに、150名の実績であった。
- ・F1決勝日の翌日にあたる、10月9日におしごと体験ワールドを実施した。例年、ボックスカートを実施しているところであるが、今年度は青年部40周年の記念となるようなイベントを実施することとなり、子どもを対象に、ものづくりのまち鈴鹿を体感いただく、おしごと体験ワールドを実施することとなった。
 - ・F1ツイ割については、昨年に引き続き実施させていただいた。

【鈴鹿市観光協会・西山氏】

【資料3】『手荷物預かり所』P9に基づき報告。

- ・F1開催期間において、観光協会の営業時間を延長し、手荷物預かり所を7時から21時30分まで、実施した。
- ・手荷物預かりの利用者のほとんどが、シャトルバスの利用者であると考えている。
- ・実績については、昨年とほぼ同数の335個であった。

【三重県雇用経済部観光局・河口氏】

【資料3】『三重県の取組』P12に基づき報告。

- ・F1サポート施設については、F1観戦者の県内宿泊を促すために、三重県観光連盟と連携し、今年度は、2件のホテルにF1サポート宿泊施設として取り組んでいただいた。
- ・F1開催期間の10月6日から8日までの4日間に、618名の利用があった。
- ・サポート宿泊施設独自の取組として、サポートグッズのプレゼントやF1に関する映像の上映など、利用者から好評いただいている。
- ・鈴鹿市観光協会の取組である、今からでも泊まれる宿泊施設の情報提供についても、引き続き連携し実施していく。
- ・F1開催期間中、鈴鹿サーキット園地内にてみえの食旅パスポートの臨時発給を行い、630冊の実績があった。今後も三重の魅力を発信し、県内周遊に繋がりたいと考えている。
- ・三重県フードイノベーション課と連携した取組として、「MADE IN MIE」ブースを出店した。
- ・三重の豊かな自然に育まれた、農林水産物や匠の技によって産み出された工芸品などを販売する21事業者の出店があり、3日間で588万円の売り上げがあった。
- ・今後も三重の観光や物産を楽しむことができるよう、情報を発信し、日本が誇る国際イベントF1日本グランプリをF1協議会の一員として、盛り上げていきたい。

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・小野】

- ・事務局よりその他のイベントの報告を抜粋して報告させていただく。

【資料3】『イオンモール鈴鹿展示』P2に基づき報告

- ・9月22日(金)から9日(月・祝)まで、イオンモール鈴鹿およびイオンシネマ鈴鹿にて、鈴鹿市出身フォトグラファー熱田護さんの写真展を開催した。
- ・写真展では、イオンモール鈴鹿にて日本グランプリのプレイバック写真を計29枚展示、イオンシネマにてアイルトン・セナの写真を計9点展示し、F1開催気運の盛り上げを図った。

【資料3】『F1ジュニアピットウォーク』P2に基づき報告

- ・10月5日(木)に、鈴鹿サーキット国際レーシングコースにて、F1ジュニアピットウォークを実施し、市内6校、401名の参加があった。
- ・ジュニアピットウォークを楽しんでいただけるよう、事前学習を行い、知識をつけた上で、F1チームとメール等による交流いただいた。これらの交流のおかげで、ピット訪問の際、各チームに暖かく迎えていただき、参加校に満足いただくことができた。

【資料3】『F1映画祭』P3に基づき報告。

- ・10月5日(木)から8日(日)、各日18時からイオンシネマ鈴鹿にてF1映画祭を開催した。
- ・今年度は、「伝説のレーサーたち～命をかけた戦い～」を上映し、4日間で485人と過去2番目に多い動員があった。
- ・イオンシネマでの写真展も同時に実施したことから、例年以上にF1映画祭をPRすることができた。

【資料3】『鈴鹿日本グランプリ地元前夜祭』P3に基づき報告。

- ・10月6日(金)17時から21時まで、イオンモール鈴鹿第3駐車場にて、鈴鹿F1日本グランプリ地元前夜祭を開催した。
- ・今年度の地元前夜祭は、ステージイベントを充実させ集客を図った。
- ・鈴鹿サーキット様、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋様にご協力いただき、イベントの最後に大抽選会を実施した。抽選会の景品として、F1関連グッズや宿泊券などをご提供いただき、感謝申し上げます。
- ・その他、ご当地グルメ・市内物産品の販売、マルシェ等に出店いただいた。
- ・実績としては、イオンモール鈴鹿の通常金曜日の来場者(18,000人)と比較し、1.4倍となる来場者(25,000人)があった。

【資料3】『三重県・5市1町観光・物産PRブース』P4に基づき報告。

- ・10月6日(金)から8日(日)まで鈴鹿サーキット園地内にて協議会PRブースを出展した。
- ・今年度より、GPスクエア・パドックトンネル横にブース位置を変更し、三重県・5市1町の観光・物産PRや、プレイバックカーグランプリ、鈴鹿マガジンの配布、伊勢型紙

や鈴鹿墨の販売等を行った。

【資料3】『タウン雑誌(鈴鹿マガジン)の活用』P5に基づき報告。

- ・F1開催に合わせて作成される鈴鹿マガジン別冊F1日本グランプリ号を鈴鹿サーキット園地内, コンビニ, SA, 駐車場, 宿泊施設等で配布した。

【資料3】『オリジナル絵馬で優勝祈願』P8に基づき報告。

- ・オリジナル絵馬で優勝祈願とF1日本GP観戦会については, 鈴鹿モータースポーツ友の会様の取組であるが, 代わりに報告させていただく。
- ・オリジナル絵馬で優勝祈願の取組については, 2012年以來, 6回目の取組である。事前PRに労力がさけず, 専門誌等でのPR不足と感じていたが, 絵馬の販売数は予想を上回ったため, 本取組が観戦者に定着してきていると言える。
- ・サーキット内での販売が多かったが, 勝速日神社に足を運んでいただくことを目的としている。
- ・今後の課題としては, 絵馬のデザインの変更やリピーターを増やすこと, 外国人観戦者へのPRである。

【資料3】『F1日本GP観戦会』P8に基づき報告。

- ・F1日本GP観戦会については, 2015年以來, 3回目の取組である。また三重県の事業の一環として, 楽天トラベルとのコラボにより, 参加者の拡大を図ったが, 残念ながら微増という結果となった。
- ・今回の参加者の中には, リピーターの方がいらしゃったことから, 観戦会の内容は参加者にとって満足いただけるものであったと考えている。今後, より効果的なPR方法等を検討していきたい。

【資料3】『歴代優勝者タペストリーの掲出』P9に基づき報告。

- ・10月7日, 8日の両日, 白子駅前センター商店街振興組合様の協力のもと, 白子駅西口にある商店街のアーケードに, 歴代優勝者のタペストリーを掲出し, 観戦者へのおもてなしを行った。

【資料3】『鈴鹿F1写真展 in 伊勢鉄道』P10に基づき報告。

- ・9月30日から10月9日まで, 伊勢鉄道の車内の中吊り広告部分を活用し, 写真展を開催した。
- ・今年度は, 市主催のモータースポーツ講座を修了された山下さんに写真を提供いただいた。

【資料3】『三重県フェア』P10に基づき報告。

- ・三重県フェアについて、この取組は、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋様の取組であるが、代わりに報告させていただく。
- ・9月1日から11月30日の期間、三重県の厳選した食材を使用した「極上の三重県フェア」を実施し、三重県のPR、F1日本グランプリの盛り上げを図った。
- ・三重県フェアについては、次年度も実施予定である。

【資料3】『その他のおもてなし事業』P11に基づき報告。

- ・観戦者の利便性向上のため、仮設照明・トイレを設置した。
- ・協議会のホームページを活用し、宿泊施設情報の発信を行った。
- ・インバウンド対策として、鈴鹿サーキットへのアクセス方法を視覚的にわかりやすく表記した、外国語ページを作成した。

【資料3】『2018年に向けての取組みと課題』P12に基づき報告。

- ・2018年にむけての取組と課題については、抜粋して報告させていただく。
- ・ジュニアピットウォークについては、市内小学校の参加がほとんどであることから、協議会会員である5市1町も含め、参加校を増やしたい。
- ・F1協議会ホームページについては、観戦者が本当に必要としている情報を厳選しトップページで発信する等の情報発信の強化を検討していく。
- ・レース観戦後、市内を周遊することなく、帰路につく観戦客が多いことから、少しでも鈴鹿に滞在いただけるような取組を検討していく。

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・小野】

- ・おもてなしに関するアンケート調査結果についての説明は省略させていただく。
- ・おもてなし部会系統図については、全て実施完了しているので、詳細の説明は省略させていただく。

4 その他(質疑応答等)

【三重県鈴鹿地域防災総合事務所 矢下氏】

- ・おもてなし部会の中で、F1日本グランプリにお越しになった方は、決勝レース終了後、すぐに帰宅する方が多いと報告があり、周辺でのイベントや飲食店の情報の発信が足りないのではないかと感じた。また、アンケート結果からも、周辺の飲食店等へのアクセスが悪い等の意見が見受けられた。たくさんのお客様の来場があるF1日本グランプリをうまく活用し、少しでも鈴鹿に滞在いただけるような取組を強化し、市内の盛り上げを図っていただきたい。また、このような取組をすることで、帰宅時間が分散し、鈴鹿IC等の交通集中の解消にも繋がるのではないかと思う。

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課 小野】

・観戦者が少しでも鈴鹿に滞在いただけるようなイベント・企画等，検討して参る。

【鈴鹿F1協議会 会長 末松 則子】

- ・F1開催時のシャトルバスの運行について，三重交通様からは，問題なくスムーズな運行ができたのご報告いただいたが，事務局のアンケート結果資料においては，シャトルバスの運行について非常に悪いという項目が30%となっており，例年3%ほどしかない項目が，急増する結果となっていることから，この数値を再度検証いただきたい。
- ・次年度のF1日本グランプリは鈴鹿での開催30回の節目を迎えることから，しっかりとした受入体制で観戦者を受け入れたいと考えている。
- ・その他，環境整備部会，おもてなし部会ともにアンケート結果報告をまとめているので，委員の皆様は，細部までご確認をいただき，引き続き，鈴鹿F1協議会の取組にご理解，ご協力を賜るようお願い申し上げます。

【鈴鹿F1協議会 副会長 田中 彩子】

- ・鈴鹿サーキット周辺の交差点については，歩行者の横断が多く，車の右左折に時間がかかり渋滞が発生している。歩車分離信号とすることで，車の流れがスムーズになり，渋滞の緩和に繋がる交差点もあるのではないかと思うので，一度検討いただきたい。

【鈴鹿警察署 國枝氏】

- ・歩車分離信号にすることで，歩行者の横断の時間が確保されるが，車の流れは悪くなる。常に東西南北4方向に車が流れる交差点であれば，効果があると思われるが，F1観戦者の帰宅時のサーキット周辺道路は，一定方向の車の流れであることから，周辺の渋滞が長期化することが予想される。
- ・交差点の信号機を点滅信号にし，配置されたガードマンが現場の判断で誘導する方法が，交差点の渋滞緩和には効果的であると考えている。今後，歩車分離等の対応も含め，検討していく。

以上

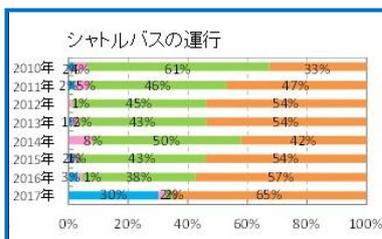
15:25 終了

<補足説明>

資料 2『環境整備部会資料』P32

事務局のアンケート結果資料において、シャトルバスの運行について「非常に悪い」という項目が30%となっており、例年3%ほどしかない項目が、急増する結果となっている点について、事務局内で再調査をしましたので、ご報告いたします。

事務局側の資料作成時のデータ入力誤りにより、「非常に悪い」が30%となっていました。正しくは、「非常に悪い」は例年と同じく「1%」でした。例年同様、「良い」「非常に良い」が90%以上を占める結果となっております。誤解を与える表現になってしまい、大変申し訳ございませんでした。今後このようなことがないよう、細心の注意を払って参りますので、引き続き協議会の運営にご理解とご協力を宜しくお願いいたします。正しい資料を、下記のとおり掲載させていただきます。



3-3. (2) 実施施策の評価

- ◆シャトルバスの運行の「大変良い」が割合増加
- ◆シャトルバスを除き、各施策とも「良い」、「大変良い」の肯定的回答が8割以上

